

02

大会がもたらすまちの未来

オリンピック・パラリンピックをまちづくりに活かすために

オリンピック・パラリンピックの開催は、我々が直面している諸問題を解決するきっかけとなり、50年後、100年後の未来を見据えたまちづくりを進めるための絶好の機会です。その機会を最大限に活かすためには、オリンピック招

致の段階から大会の目指すべき方向性(大会ビジョン)と大会後に目指すまちの姿(ターゲット)を構築し、大会によって何をもたらすことができるのか(レガシー)を明確化しました。

大会ビジョン

札幌らしい持続可能なオリンピック・パラリンピック ～人と地球と未来にやさしい大会で新たなレガシーを～

まちがこれまでに積み上げてきた歴史や文化、都市機能と自然の調和等が多面的に「つながる」大会として、SDGsの先の未来を展望する大会の実現を目指します。

- 過去と未来：1972年大会で確立したウインターリースポーツ都市を次世代の子どもたちに継承する
- 都市と自然：高度な都市機能と豊かな自然が調和したまちを創る
- オリンピックとパラリンピック：初のパラリンピック開催を契機にまちのユニバーサルデザイン化等、全ての人にやさしいまちを創る
- スポーツと他分野：スポーツと文化、教育、経済、観光、環境等、他の分野をつなげることで、無限の可能性を創出する
- 札幌と世界：選手や来訪者だけでなく、オンラインでつながる方々との交流により、札幌と世界を結びつける
- 札幌と日本：東京2020大会から、2025年の大阪万博、2026年の愛知・名古屋アジア競技大会と続く、大規模国際イベントの盛り上がりを継承し、日本全体が「つながる」ことを実現する
- オリンピック・パラリンピック：オリンピック・パラリンピックは、様々な課題解決の触媒となり、SDGsの先の未来を見据えたまちづくりのきっかけになる



❄ ターゲット&レガシー

2019年に実施したワークショップで寄せられた市民の皆さまのご意見では、オリンピック・パラリンピックに期待する効果として、健康増進や経済の活性化、バリアフリーの促進を通じた暮らしやすい社会の実現等が挙げられていました。

これらのご意見に喫緊の課題である気候変動対策を加え、「スポーツ・健康」「経済・まちづくり」「社会」「環境」の



4つの観点から、ターゲット（大会において目指すまちの姿）を構築し、レガシー（大会によってもたらされるもの）を明確化しました。

なお、次ページ以降で掲げているレガシーは、市民生活に根差したものとして挙げられる一例であり、市民の皆さんとの対話等を通じて今後さらに検討を進め、より一層の強化を図っていきます。

体系図



参考:SDGs(持続可能な開発目標)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



平成27年(2015年)の国連総会で採択された国際目標。17のゴール(目標)と169のターゲット(取組・手段)で構成されている。

02 大会がもたらすまちの未来

スポーツ・健康

札幌市の特徴：健康寿命が全国平均より低い

ターゲット（目指すまちの姿）

スポーツによる健康で活力のある社会



レガシー（大会によってもたらされるもの）の一例

ジュニア選手の発掘・育成を図り、
次世代のトップアスリートを
札幌から輩出します！

大規模にボランティアを募集し、
市民とともに大会を
創りあげていきます！

そのほかにも…

健康寿命の延伸・
健幸^{※1}社会の実現

次世代型移動通信システム等を
活用した新たなスポーツ観戦
機会の創出

気軽にスポーツができる環境を整備し、
運動習慣を定着

e-スポーツや
バーチャルスポーツ^{※2}の
普及・促進

トップアスリートの
輩出・強化・育成のための
拠点づくり

ボランティア文化の定着

目標例

平均寿命の增加分を上回る健康寿命の増加

※1 個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むこと。

※2 e-スポーツとは違い、オンライン上で実際に身体を動かし、バーチャル（仮想）で競うもの。

経済・まちづくり

札幌市の特徴：雪まつり期間以外の冬期は観光閑散期
超高齢社会に適した交通体系の構築が必要

ターゲット（目指すまちの姿）

世界に躍進する魅力あふれるまちづくり



レガシー（大会によってもたらされるもの）の一例

大都市スノーリゾートとしての
ブランドを確立し、国内外から
観光需要を呼び込みます！

ICT等を活用した技術提案を
取り入れ、新たな交通体系の
実現を目指します！

そのほかにも…

ICTを活用した
シームレスで快適な
移動環境の構築

「世界に誇れるスノーリゾート・
国際都市札幌」の認知

スタートアップ^{※3}の集積

MICE^{※4}の開催都市として
定着する

施設等の老朽化対策・
まちのリニューアル

誰もが活躍できる
雇用環境の確保

目標例

2022年度年間外国人宿泊者数350万人

※3 社会や多くの人々が抱える課題を解決するため、革新的なアイディアや技術等をもとに、新しい形態のサービスやビジネスを開拓する企業の中でも、社会に影響を与えることが期待でき、短期間で急成長を志向する企業。

※4 多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。Meeting(会議・セミナー)、Incentive Travel(企業報奨・研修旅行)、Convention(大会・学会・国際会議)、Exhibition/Event(イベント・展示会・見本市)の頭文字をとったもの。

02 大会がもたらすまちの未来

社会

札幌市の特徴：障がいのある人のうち、地域で暮らしやすいまちと思う割合が低い

ターゲット（目指すまちの姿）

全ての人にやさしい共生社会の実現



レガシー(大会によってもたらされるもの)の一例

心のバリアフリーが実現した
誰もが暮らしやすいまちを
目指します！

食や芸術等札幌ならではの
文化プログラムを募集し、
世界に発信します！

そのほかにも…

インフラのバリアフリー化促進

アイヌ文化をはじめとした
多文化への理解促進

障がい者スポーツへの
取組促進

雪を楽しむ文化や
ライフスタイルの普及

ジェンダー平等の推進

ICTを活用した健康増進・
医療・福祉サービスの充実

ワーク・ライフ・バランスの推進

目標例

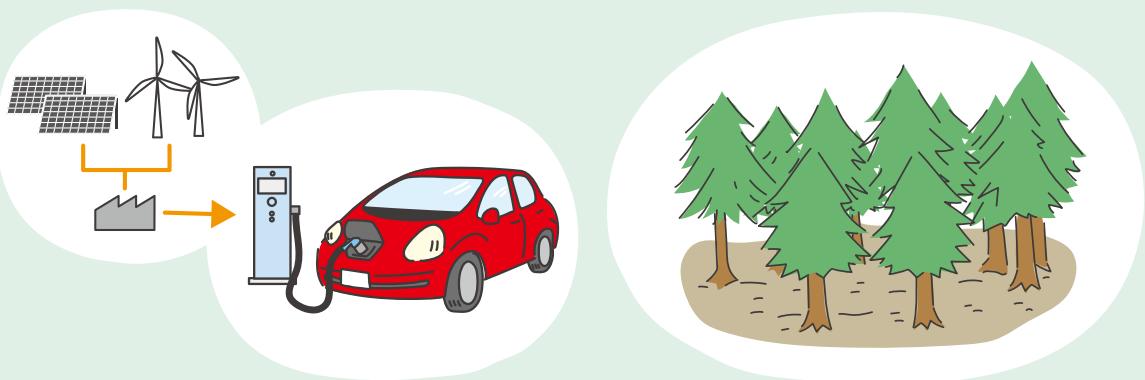
2030年度末までに利用者数の多い集客施設等を結ぶ経路の
バリアフリー化率100%

環境

* 札幌市の特徴：家庭における一人当たりのCO₂排出量が多い

ターゲット(目指すまちの姿)

次世代が豊かな自然を享受できるまち



レガシー(大会によってもたらされるもの)の一例

再生可能エネルギー利用の
社会実験を実施し、積雪寒冷地における
新たな環境技術を積極的に導入します！

多くの人々の参加を受けて、
緑を育む活動を行います！

そのほかにも…

再生可能エネルギーの
利活用

森林等の自然環境保全

3R^{※5}の促進

脱炭素型ライフスタイルへの転換

ゼロエミッション
自動車の普及

省エネを徹底した
建物の普及

公共施設の温室効果ガス^{※6}
排出量ゼロの促進

目標例

2030年までに温室効果ガス排出量を2016年比で55%削減、
2050年までに実質ゼロ

※5 ごみの減量行動の①リデュース(発生・排出抑制)、②リユース(再使用)、③リサイクル(再生利用)の3つのR(アール)の総称。

※6 地表面から宇宙空間に放出される熱の一部を吸収し、大気温度の上昇を引き起こす二酸化炭素やメタンなどのガスのこと。

02 大会がもたらすまちの未来

札幌から広がるレガシー

オリンピック・パラリンピックは、開催をきっかけに様々な取組が進むことで、多くのレガシーを残します。加えて、開催地だけではなく、広く世界中に、多くのメリットがもたらされることにもつながっていきます。

「クライメート・ポジティブ」な大会、そして世界へ

近年、猛暑日や豪雨災害の増加、農作物の収穫量減少等、私たちの生活を脅かす自然現象が頻発していますが、地球温暖化はその要因であると考えられています。

冬季オリンピック・パラリンピックは、山あいや林間部等、自然の地形を生かした会場で行われる競技が多く、十分な

降雪や寒冷な気候がなくては開催することが困難となります。このまま地球温暖化が進むと、2080年代には過去に冬季オリンピックを開催した都市の多くが開催に適した気候ではなくなってしまう、という研究結果もあります。

温室効果ガス排出量に応じた将来の冬季オリンピック開催に適した場所

	1981-2010年	2050年代 低排出	2050年代 高排出	2080年代 低排出	2080年代 高排出
Albertville	●	●	●	●	●
Beijing	●	●	●	●	●
Calgary	●	●	●	●	●
Cortina d'Ampezzo	●	●	●	●	●
Pyeongchang	●	●	●	●	●
St.Moritz	●	●	●	●	●
Salt Lake City	●	●	●	●	●
Sapporo	●	●	●	●	●
Lake Placid	●	●	●	●	▲
Lillehammer	●	●	●	●	▲
Nagano	●	●	●	●	✗
Turin	●	●	●	●	✗
Innsbruck	●	●	▲	▲	✗
Oslo	●	▲	▲	▲	✗
Sarajevo	●	▲	▲	▲	✗
Squaw Valley	●	▲	✗	✗	✗
Vancouver	●	▲	✗	✗	✗
Chamonix	●	✗	✗	✗	✗
Garmisch - Partenkirchen	●	✗	✗	✗	✗
Grenoble	●	✗	✗	✗	✗
Sochi	●	✗	✗	✗	✗

- 信頼できる気候
- ▲ 気候的に大きなリスク
- ✗ 気候上信頼できない

(出典:「Climate change will limit where the Winter Olympics can be held」
Dr.Daniel Scott他、2018年1月11日)

2030年以降のオリンピックは、温室効果ガスの削減量が排出量を上回る「クライメート・ポジティブ」な大会であることが求められています。その実現のため、例えば、大会をきっかけに新しい環境技術が生まれ、それ以後活用されることで、札幌発の「環境のレガシー」が世界中に広まります。これは、地球温暖化という人類共通の課題を解決に導く手立ての一つとなり、札幌が世界にもたらす好影響であると言えます。



❄️ 活力ある北海道、日本の実現

オリンピック・パラリンピックは、その規模や注目度の高さから、開催決定後、開催都市を訪問する外国人の数が長期間にわたって増加する傾向があると言われています。札幌1972大会においても、さっぽろ雪まつりの様子が大会の映像とともに世界中に紹介されたことをきっかけに国内外から多くの観光客が訪れるようになり、今や冬を代表する一大イベントとなりました。

一方、雪まつり期間を除く冬期は札幌の観光閑散期であり、その期間の集客力向上が課題となっています。そこで、冬季オリンピック・パラリンピックを通じ、ワインタースポーツと、観光や食、ショッピングなどを併せて楽しむ「スノーリゾートシティ」を実現することにより、市内の他の産業へ好影響がもたらされます。

また、このコロナ禍で、市内、道内の経済、主に飲食・宿泊サービス業等の第三次産業は大きなダメージを受けました。ポストコロナ時代を見据え、大会をきっかけに関係自治体やその近隣市町村、北海道と連携し、観光客の獲得や観光周遊ルートの形成等の観光振興策を図ることで、北海道の観光の底上げ、活性化を進めていくことができます。

さらに、北海道には多様なワインタースポーツを楽しめるフィールドがあることから、大会を契機としたプロモーションを行うことで、北海道を世界屈指の一大ワインタリゾートエリアへ発展させることが期待されます。これにより、日本を世界における冬の観光大国に押し上げ、経済や人的交流が活発化され、活力ある北海道、日本が実現できます。

